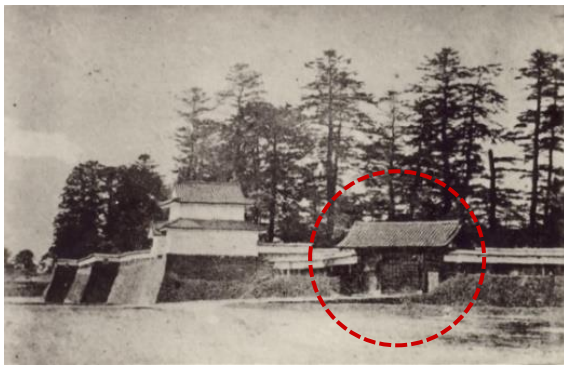


新発田城土橋門復元整備基本計画（概要版）

新発田城は、市の歴史文化において重要な意味合いを持ち、郷土の誇りや愛着を醸成する拠点（地域のシンボル）として広く市民に親しまれています。本計画は、新発田城を理解する上で重要な「土橋門」の復元を通じて郷土への理解と関心を深めることを目的として策定しました。

1 整備予定地



新発田城写真（明治時代）



旧二の丸隅櫓



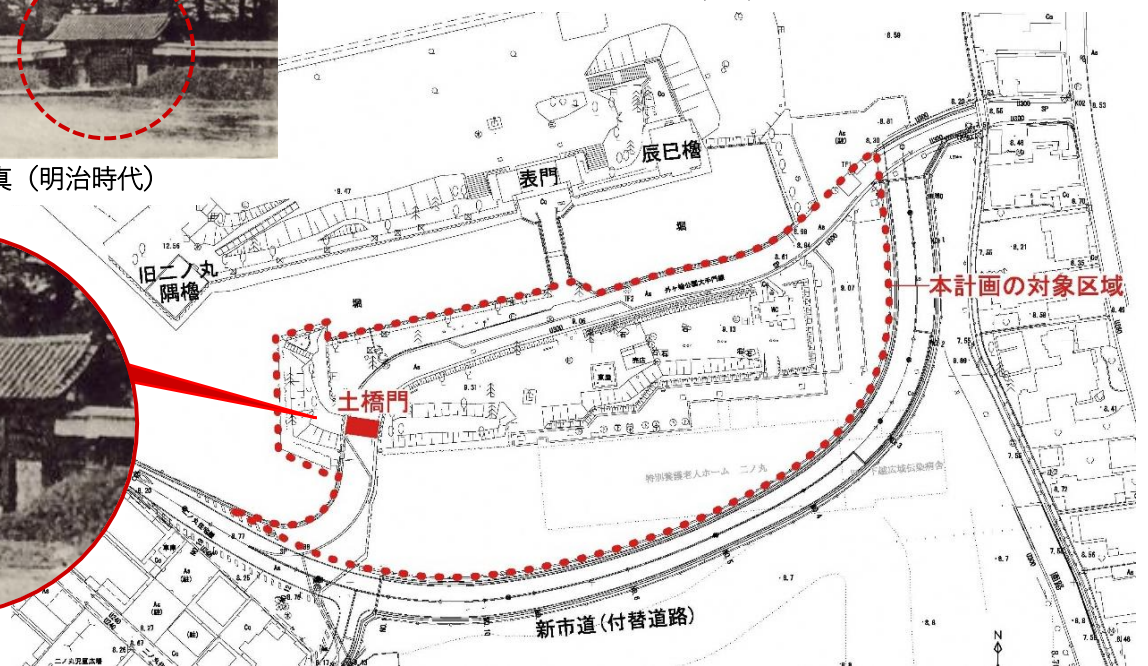
本丸表門



辰巳櫓



土橋門拡大



2 土橋門の特徴

(1) 城の防御構造

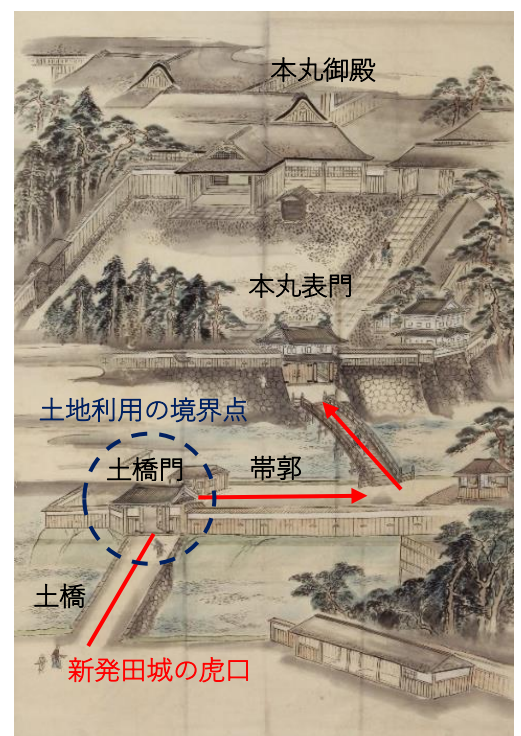
土橋門は、二の丸から本丸への正面口にあたる城門であると同時に、新発田城の防御構造を象徴する存在です。本丸表門は城門としては単純な構造となっていますが、**帯郭**^{※1}とそれに面した堀や土橋門の存在によって**櫓形虎口**^{※2}と同様の機能が果たされていたと考えられ、その構造は新発田城の特徴となっています。

(2) 土地利用の境界点

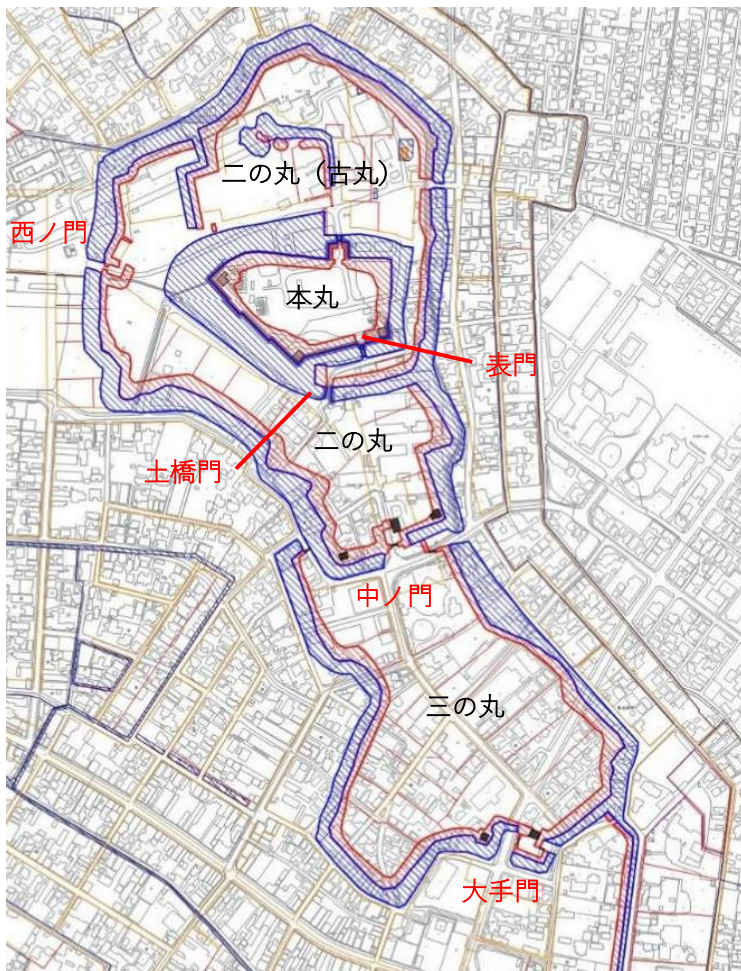
土橋門は実質的な正門であり、江戸時代中期以後は土橋門の内側に家臣の屋敷地は設けられず、城内の構造や土地利用の重要な境界点となっていました。また、土橋より先のエリアは馬や乗り物での登城が許されず、徒歩で登城していました。

※1 おびぐるわ
帯郭 …本丸の東側と南側で带状を呈する曲輪。

※2 ますがたこぐち
櫓形虎口 …堀や土塁で区切った空間に二つの門を配した城の出入口で、最も防御効果の高い入口の形式とされています。



3 遺構の整備方針



三階櫓



土橋門跡周辺



石垣と堀

(3) 土橋門の整備方針

土橋門については、新発田城に対する市民理解の促進を目的とし、史実に基づいた復元を目指します。また、復元にあたっては「文化庁の基準※3」を参酌した歴史的建造物の再現を図るとともに、往時の新発田城を体感することができる質の高い整備を行います。

※3 「史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準 (R2.4 文化庁文化審議会文化財部会決定)」

(4) 土橋門に関連する要素(土橋・土塁・土塀・堀)の整備方針

土橋門に関連する要素については、現時点で復元の根拠となる十分な資料や調査結果が揃っていないと言いき、城の理解促進に資する質の高い整備を行うことが難しい状況にあります。また、土塀の復元は現存する遺構(土塁)の損壊に繋がる恐れがあり、「遺構の保護」という大きな課題を抱えています。他にも「土塁上の樹木の取扱い」や「財源確保」など様々な課題を解決していく必要があります。

以上のことから関連要素については、将来的な復元を想定し、遺構の表現(舗装や植栽等)により往時の様相とその価値をわかりやすく伝え、新発田城に対する理解促進に努めます。

(1) 現存する遺構の保護

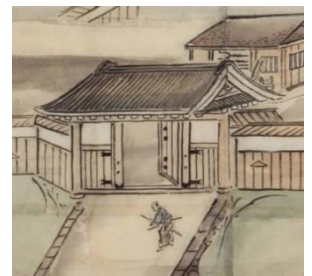
かつて三の丸まであった新発田城は、その多くが失われ、現存する遺構の保護が大きな課題となっています。

特に本丸の一部は市の史跡に指定されており、隣接する土橋門周辺についても将来的な指定を想定していることから史跡に準ずるエリアとして取り扱います。遺構の損壊に繋がる恐れのある整備は避け、遺構の保護に努めます。

(2) 歴史的景観の維持・向上

新発田城は、国の重要指定文化財の本丸表門・旧二の丸隅櫓に加えて石垣や堀が現存しており、復元した三階櫓と辰巳櫓を含めて一体的な城郭空間を形成していることが評価されています。

本整備では、既存の歴史的景観との調和を図り、その価値の維持・向上に資する整備を行います。

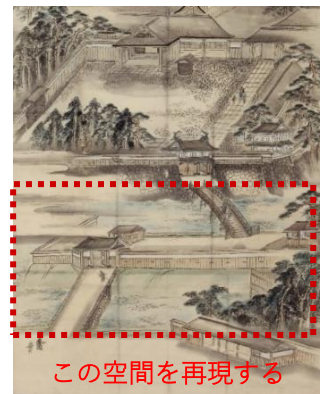


絵図(土橋門拡大)

4 復元整備計画

(1) 復元整備の目指す姿

- ①土橋門を立体的に再現することにより、本丸表門と土橋門等で構成される新発田城の特徴的な防御構造を表現し、築城者の意図や工夫に対する市民理解を深めます。
- ②表門前の既存市道を遊歩道化し、徒歩で登城していた往時の空間を再現することにより、城の縄張り（城内の構造や土地利用の考え方）に対する市民理解を深めます。



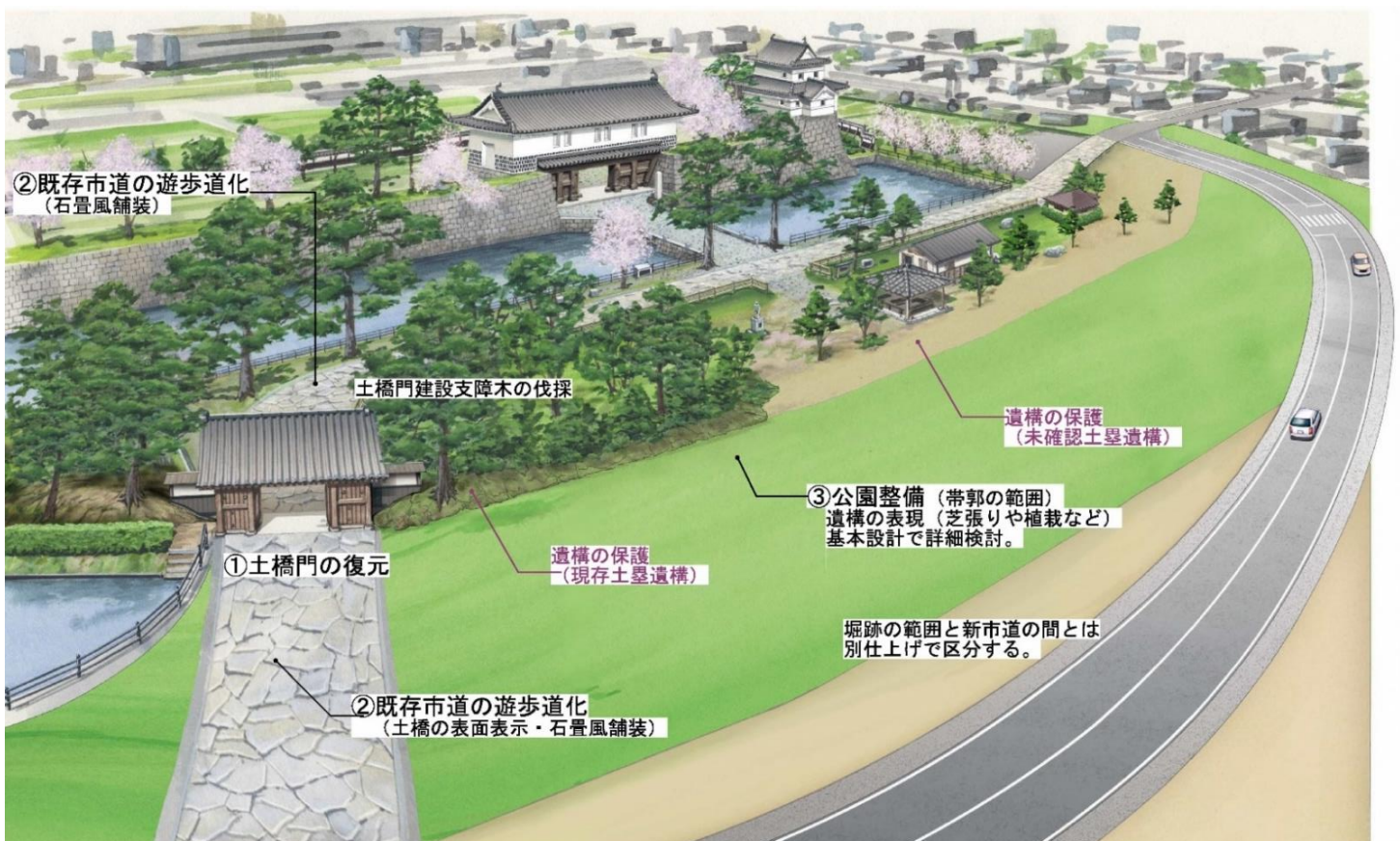
(2) 復元整備による具体的な変化

- ①史実に基づいた土橋門の復元を目指すことで歴史的景観としての価値が向上し、新発田城の魅力が高まります。
- ②表門前の既存市道の遊歩道化に伴い、道路の美装化を行います。また、土橋部分を往時の道路線形に修正することで登城ルートを実際に歩くことが可能になります。
- ③実質的な正門である土橋門を復元することで土橋門から本丸表門までの帯郭部分も城内であったという事実が認識され、新発田城が持つ本来の奥行を感じることができます。
- ④既存市道を遊歩道化することで、分断されていた市指定史跡と土橋門周辺の遺構エリアが一体化され、公園としての魅力が高まります。

(3) 復元整備の目的

本整備の目的は、土橋門復元の意義を広く周知し、知的好奇心を満たすような整備を行うことで新発田城に対する市民の興味や関心を高め、城への理解促進を図ることです。

今後の復元作業や完成後の利活用を通じて、新発田城の魅力を多方面に発信し、郷土の誇りや愛着を醸成する拠点（地域のシンボル）としての認知度を上げることで、新発田城の保存・継承に繋がっていきます。



5 土橋門の復元検討

(1) 復元位置

帯郭の南西部、現存する土塁の間と想定されますが、令和6年度の発掘調査では礎石などの遺構は確認できませんでした。復元資料は古写真を中心としつつ、引き続き復元の精度向上に向けて、令和7年度の発掘調査により、位置が把握できる遺構の検出や、市民に写真等の情報提供を求めるなど、継続した資料収集に努めます。



発掘調査の様子



発掘トレンチの位置



1トレンチ (東西)



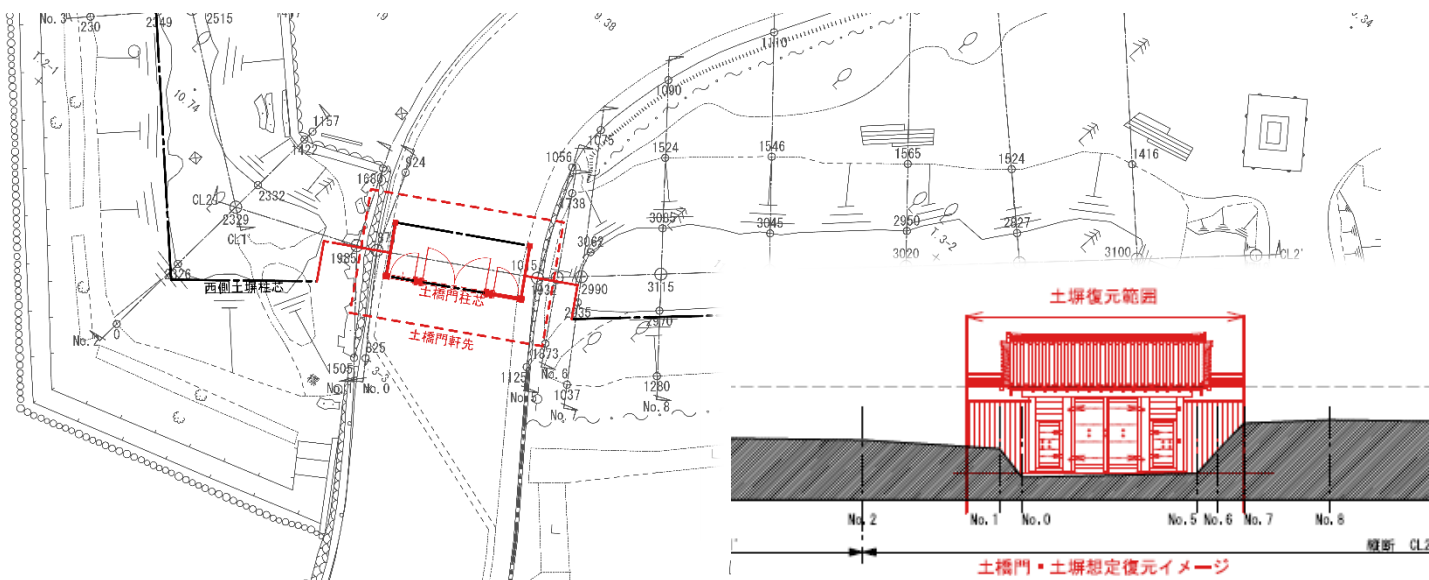
2トレンチ (南北)

(2) 復元規模

清水園大門（総門）が古写真の土橋門の形式と合致し、有力な類似事例と考えられます。平面規模が同等と想定した場合、正面約5.8m、側面約2.3m程度の規模と推測できます。また、古写真の屋根勾配から比較検討した結果、高さは約5.41m程度であると想定されます。

(3) 建築形式（意匠・構造）

古写真より単層平屋建の門、正面三間で中央に両開き戸を設け、両脇に潜戸を配し、本柱列の奥に棟通りを持つ薬医門、屋根は切妻造平入、本瓦葺、柱は角柱、正面の壁は板壁と考えられます。写真では判別できない詳細な意匠については、類似事例を補完資料として設計を進めていきます。



6 今後のスケジュール

令和7年度：基本設計、発掘調査

令和8年度：実施設計、建築工事発注

※付替道路（新市道）完成

令和9年度：外構工事発注

令和10年度：土橋門完成

新発田市土橋門復元整備基本計画（概要版）

発行：令和7（2025）年3月

編集：新発田市教育委員会 文化行政課

〒959-2323 新潟県新発田市乙次 281-2

TEL0254-22-9534